

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達と共に生活していく中で、穏やかで安心できる暮らしを実現させ、近所の景色の移ろいを肌で感じていただき、四季を楽しんで頂いています。	○	ホーム自体の理念を柱として、職員一人一人の理念を考え、より細かい心配りを気掛けています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を見直しており、日々の現場でも理念に沿ったサービスを提供できる様に指導しています。 また、勉強会でも「自分振り返り」として、理念や自分のサービス提供のあり方について見つめ直しています。	○	当ホームの理念と共に各自それぞれ自分の理念を掲げており、その理念に基いたケアが定着するよう努力していきたいところです。又、自分の1日の振り返る習慣をつけるために記録ノートを作成し取り組んでいます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各フロアに掲示しています。家族交流会や面会時など理念について説明したり、伝えるように心掛けています。又、広報誌にて理念を紹介してご家族にお渡ししています。	○	地域の集まりや行事の際に、グループホームについての理念を深められるように話をしたり、取り組みたい事や役割なども伝えていきたいと思えます。
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員には挨拶をするように徹底しています。行事を通して顔見知りになった近所の方々や、買い物で顔見知りになったお店の人、近所の子供が遊びに来てくれます。また、散歩へ出かけた時は挨拶を心掛けています。	○	ぐるーぷほーむのご入居者、スタッフのことを知って頂きお互いに顔なじみになり、気軽に立ち寄り遊びに来てもらえるような関係を築いていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事へ参加し、グループホームでの行事にも参加して頂いています。敬老会では、踊りを披露して頂いたり、ソフトボール大会にも地域の一員として参加しました。また、消防活動にも参加しており、お互い協力し合える関係づくりに取り組んでいます。	○	今後も運営推進会議などを通して地域行事や活動予定の情報を教えて頂き可能な限り参加、協力をさせて頂きたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に向けた健康教室をグループ内事業所と開催している。	○	今後も引き続き地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを話し合い健康教室当を開催して行きたいと思っています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員其々が実施する事で、自分ができるような取り組みをしてきたかの振り返りができることを説明しています。又、前回の評価を踏まえて改善策を検討し、質の向上に努めています。	○	前回の外部評価で指摘いただいたことを実践の場で活用していますが、より良いものを目指してさらに改善に努めています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者やサービスの実際、状況、活動内容等について報告や話し合いを行い、ご意見を頂き、家族交流や地域への取り組み等、サービス向上に活かしています。	○	参加された方々だけでなく、他のご入居者・ご家族・地域の方の意見も聞き、反映できる様に働きかけたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは、会議の場以外でも、地域の活動やその他、ネットワーク活動を通じて質の向上を目指しています。	○	協力できる事は積極的に今後も取組んでいきたいと思えます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の勉強会に参加しています。また、要望があったご入居者には成年後見制度を活用していただいています。ご家族からの依頼で書類作成や情報提供など全面的に協力させて頂きました。	○	今後も必要と思われる方へは提案等おこなっていくと共に、勉強会へも参加して行きたいと思っています。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、参加できなかった職員にも報告書を見て学んでもらっています。また、勉強会で「自分振り返り」を行い、虐待防止等に関しても見つめ直しています。	○	身体拘束ゼロ推進委員会を立ち上げましたので、これから内容を充実させていきたいと思えます。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を用いながら説明を行い、その都度質問や疑問に思う事を聞きながら理解を得ています。また、その場で了承していただくのではなく、もう一度ゆっくりと文書を読み直していただいてから、後日質問や疑問等ないかを確認しています。	○	充分、且つ確実に理解・納得して頂ける様に、明瞭・短的に説明を行なって行ける様に取組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも何でも話してほしい旨常々伝えており、ご入居者と職員間でコミュニケーションを図るようにしています。また、運営推進会議の場で外部者に意見が表せる機会を設けています。	○	意見や苦情など言いやすい雰囲気を作る、出された意見に対し速やかに対応し、不満の解消につなげるという姿勢を忘れず向き合っていきたいです。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	よく面会に来てくださるので、その都度報告をしています。又、2ヶ月に1度、ホーム便りを作成して文書と写真を交えた報告を始めました。	○	ホーム便りを定期的に発行し、口頭だけではなく、文書や写真を交えて報告を行っていきたくと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議で意見・要望を言って頂き、会議で検討し、できる限り早急に対応しています。	○	意見箱に書くまでもない内容であったり、運営推進会議に参加せず意見を出す機会が少ないご家族に対しても、意見を出し易くして行くために、コミュニケーションを密にしていける様に取組んで行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションを密にして意見や要望をくみとったり、スタッフミーティングを利用して皆で話し合うようにしています。	○	細かな事でも意見を言い合える様な関係や機会作りを取組んで行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時に応じて、他フロアから応援に来てもらう様にしています。	○	病院送迎等で職員が少なくなる時間帯ができています。介護度の重度化に伴い、職員の数が手薄にならない様に検討して行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットを越えた勤務体制を徐々に行い、どのご入居者にも馴染みになっていただき、ユニット異動があってもダメージを防ぐ努力をしています。	○	急な異動でも対応できる様に、他フロアのご入居者の対応・声かけを共有して行ける様に取組んで行き、ご入居者へのダメージを防いで行きたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修の案内を皆に伝達し、参加が可能であれば参加するよう促したり、スタッフ同士で誘い合ったりしています。また、個人の能力に合わせた研修への参加を行っています。	○	より多く勉強できる機会を増やして、認知症介護に必要な知識や情報を学んでいけるように取組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話などで情報交換し、ご入居者へのサービスや職員育成などについて意見交換をしています。 また、グループホーム連絡協議会などにも参加し、交流やサービスの質の向上に取り組んでいます。	○	多くの職員にグループホーム連絡協議会などへの参加を促し、事例や地域交流、様々な取組みなどの情報交換を行なって行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と業務やご入居者対応で悩みや問題がないか個別に声をかけ、話すようにしています。親睦会なども行ない職員間の交流も図っています。 また、希望休などにも可能な限り答え、ストレス発散できるような環境づくりに取り組んでいます。	○	個別のカウセリング等を行なう機会を作り、職員のストレスを少しでも軽減できる環境づくりを整えて行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けて支援を行なっている。運営者も頻繁に現場を訪れて職員の努力や勤務状況などの把握に努めている。	○	職員一人ひとりの長所を見出し、伸ばして行けるような指導を行い、向上心を持って働けるように取り組んで行きたい。
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い、グループホームがどのような所であるか説明する事と、見学をして頂いて、不安等をお聞きしています。	○	話をする時はリビングなどの人が大勢いる所ではなく、居室や事務室を使用し、ゆっくりと話を聞くようにしたり、ご家族が相談しやすいような環境にしたりスタッフとの信頼関係作りに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込みの時点で詳しく説明を行い、相談を受けています。又、些細な事でも相談して頂く様にお伝えしています。	○	ご家族の表情や言葉等細かなところにも注意を払い、思いを感じとるように努め、ご家族に気軽に話していただける関係を築けるような機会作り、話しやすい職員、環境を作って行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、他のサービスの説明も行い、選択肢を広げています。	○	必要時には、可能な限り早急に検討し、結果をご入居者やご家族に確実に報告できるように取り組んで行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり、面談に行ったりして、少しずつ馴染んで頂いています。また、本人が不安がある最初の頃は面会に来ていただくようお願いしています。	○	入居されてからも職員が関わりを持ちながら、他ご入居者との間に入り、馴染んで行けるように取り組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人世の大先輩である事を意識して、その人に合った質問を行い、教えていただく場面を作っています。又、得意な事を教えて頂いたりして、勉強させて頂いています。	○	ご家族の状況の変化やご自身の体調の変化等で一緒に泣いたり笑ったりしていますが、ご入居者とよく語り合って、喜怒哀楽を共にして行きたいと思います。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の、入居者に対する想いを受け止め、それを支えていく為にスタッフも協力させて頂きますという気持ちを伝えていくようにしている。	○	ご家族とスタッフが同じ想いで入居者をケアしていけるような絆や信頼関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族への行事への参加を呼びかけるなど、ご入居者とご家族と一緒に過ごせる様な機会づくりに取り組んでいます。また、ご入居者とご家族と一緒に外出・外泊できる様に話し合いをしています。	○	外出や行事等への参加を多く呼びかけ、ご入居者とご家族が共に過ごせる機会づくりに取り組んで行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた人間関係、生活習慣を把握しコミュニケーションを計ったりして関係や習慣が途切れないように努めている。	○	本人の馴染みの場所、知人等に会いに行ったり継続的な交流が出来るような働きをもっとしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつの時間にはスタッフも一緒に会話を持つようにしたり、新聞折り・広告折り等を通して利用者同士の関係を深めて行くよう努めている。	○	入居者同士の支え合いをもっと引き出して行き、本人の気持ち意欲をもっと出せる様な場面を作ったりその人の個性をうまく活かすようにしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されたご家族が遊びに来ていただいたり、ボランティアに来てくださったりしています。	○	退居しても、他ご入居者や職員と馴染みの関係があり、気軽に立ち寄っていただけるようにこれからも取り組んで行きたいと思います。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
	<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に何か悩みはないか、今困っていることはないかなどを聞いたり、ご家族からの意見、要望を聴きケアプランを検討しています。	○	日々の観察を十分に行い、何が悩み、楽しみ、苦しみ、悲しみなのを見極め、本人との関わりを多く持ち、本音を話せる関係を作るように努めています。ご家族からもご本人に対する色々なご意見を話していただけるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族からの情報等で今までの暮らしぶりや出来事を把握する様にしています。	○	随時、知り得たことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の一日の過ごし方や気持ち、生活習慣を日々の生活の中で感じとるようにしています。	○	随時、気づいたことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
	<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングや会議の場でご本人の状態・思い・希望を考えながら職員同士で話し合いをしたり、ご家族の意見、要望を聞き、介護計画書を作成しています。	○	今後更にご家族の意見、要望を話して頂ける場を設け、入居者の思い・希望に少しでも応えられるようにしていきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の期間に応じた見直しと共に、退院された後に話し合いを行ない入居者の現状に合わせて新たに介護計画書を作成しています。	○	入居者の新たな要望や変化に素早く対応し、ご家族の意見・要望を聞き、各ご入居者の現状に即した計画書を作成していきます。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはその方の表情・言葉・仕草や、職員・他入居者との会話でどのような言葉が返ってきたのかなどを記録して目を通したり、申し送り時に情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	情報の共有の為に、欠かせないエピソードや言葉、〈どういった時に喜んで頂けたか〉、〈どういった時に笑顔が見られたか〉を記録し、個々のケアのあり方、ケアプランの見直し等に活かしていきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族のその時の要望に応じ通院・送迎等行い、医療連携体制の機能を活かし迅速に対応しています。又、他の病院受診の場合も移送サービスを行い定期的に受診して頂いています。	○	医療連携体制の機能を活かし、体調不良の早期発見や対応、入院の場合も早期退院できるように健康面でも柔軟な支援をしていきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で地域の方々が協力できる事を検討しています。また、消防署とは連携を図り支援して頂ける事になっています。	○	今後、ご本人との地域の接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科診療や美容サービスを利用しています。	○	ご入居者の意向に沿ったサービスがないか模索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂き、話し合いや検討を行ない、協働できるように取組んでいます。	○	今後も地域包括支援センターと協働しながら、地域支援ネットワークを築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、基本原則としてご家族に対応して頂いていますが、受診前後にご家族と情報交換を行ったり、必要時には、かかりつけ医に電話連絡をし、助言を頂いたり情報交換を行ない関係を築けるように取組んでいます。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関に専門医が入っているので、必要に応じて相談や受診等行なっています。	○	専門医から診断や治療、対処法などの指示を受けている。 今後も信頼関係を築きながら相談に応じて頂けるよう努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職の職員が勤務しており、ご入居者の健康管理や介護職員の相談を受けています。また、法人他施設の看護職とも情報を共有しており、24時間体制で主治医・看護師が対応できる体制を作っています。	○	全入居者の状況把握のためNsミーティングを定期的にかけて情報共有に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院した際は、医療機関に情報を提供しています。また、定期的にお見舞いへ行き、状況の確認や医療機関との情報交換や相談を行ない、早期退院できるように取り組んでいます。	○	家族の方とも連絡を密にとり情報交換、状況把握をしながら入院中もご入居者、ご家族を支えていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の主治医、看護師等と話し合いを持ち、看取りの指針を作成し、契約時に説明し同意を得ています。	○	ご家族・医療機関と情報交換を密にして、体制を万全なものにして行きたい。 また、勉強会の機会を多くもち、職員のスキルアップに取り組んで行き、職員が不安を持たないようにして行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでのターミナルケアについて知識や理解を深める勉強会を開催しました。職員全体で率直に検討していく準備を行なっています。	○	ご家族・医療機関との情報交換を密にして、体制を万全なものにして行きたい。 また、勉強会の機会をもち、職員のスキルアップに取り組んで行き、ご家族が安心してまかせられる様、職員が不安感を持たず自信を持って行ける様に取り組んで行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人も交え、ご家族と十分に話し合いや情報交換を行ない医療機関の紹介・調整などをして、スムーズに新しい施設での生活が始められるよう努めている。	○	ご本人も交え、ご家族と十分に話し合いや情報交換を行ない医療機関の紹介・調整などをして、スムーズに新しい施設での生活が始められるよう努めている。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心やプライバシーを守る為の意識の向上を勉強会やミーティングで図っています。問題と感じる時はその都度話し合っています。	○	個人情報保護法の理解を深め、プライバシー保護の徹底や、個人情報の管理に努めて行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意思を押し付けず、ご入居者が決め兼ねている時は、複数の意見を提案し、自己決定出来るよう支援しています。	○	ご入居者の日々の暮らしの中で、望んでいる事や、関心を示すもの等を把握し、自己選択、自己決定できる様、接して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとりの体調や気分配慮し、個人のペース合わせた支援に取り組んでいます。	○	その人らしい暮らしを守るために、全職員の意見を出し合い、より良い支援を行ないたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族の方から散発して頂いたり、毎月1回の理容サービスを利用されています。また、職員と買い物へ出かけ、ピアスやヘアバンドなど購入され、おしゃれされてる方もいらっしゃいます。	○	ご家族の協力を得ながら、ご入居者のおしゃれの好みを把握し、皆さんが身だしなみに興味を失わない環境作りをしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者に好みの物を伺ったり、味見をして頂いて、志向に合う物を提供できる様に、取り組んでいます。	○	今後もご入居者の好みを伺いながら食事を楽しんでもらい、新しい料理や楽しく作れる料理を探しご入居者に楽しんで頂けるように努めます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事制限の有る方は、量を減らして提供したり、近所のコンビニへ買い物に行き、好みの物を選んで楽しめる様、支援しています。	○	飲み物やおやつは複数用意し、ご入居者が選べるようにしています。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けをし、トイレ誘導を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持の為、体調不良を除いて、週2~3回入浴して頂いています。入浴希望の確認をしたり、ご本人の表情や言動を見ながら、入浴して頂いています。	○	体調や希望を十分に考慮しながら、入浴を皆さんが楽しめる環境を、ミーティングで議論し、支援して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中帯は他の入居者の方とのお話や運動などで、生活のリズムが乱れぬ様に努めていますが、体調や希望などを受け止めて、安心して休息できる様支援しています。	○	日々の体調や気分を考えて、今日も楽しい一日だったと思って頂ける様に、取り組んで行きたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃に習得した技術を披露して頂いたりできる事をできる範囲でお手伝いをお願いし、感謝の言葉をその都度お伝えしています。	○	ご入居者の趣味や経験を周知し、一人一人の暮らしに合った楽しみや気晴らしを支援して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望やご家族の意向でお金を持っている方もあり買い物等出かけた時は、ご自分でお支払いされています。	○	ご家族からおひとりおひとりのお小遣いをお預かりしており、必要に応じて手渡し、お支払いをして頂くよう工夫していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、体調等を踏まえて、ご入居者の気分転換や季節毎のイベント(花見や祭)に出かけています。	○	なじみの場所や一人一人の思い出の場所を話の中から見つけ、対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ等で昔なじみの場所へ行ったり、遠出の時は無理のない予定を立てて、出かける様にしています。	○	希望の場所がないかを話の中で探り計画して、実行していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい要望がある時は、ご本人に電話口に出て頂く様にしています。	○	手紙等書けない方でも一人一人の希望に添える様何らかの方法で外部との通信手段を確保したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの方の訪問には、感謝の意を表し、スタッフにも気軽に声をかけてもらえる様に願っています。	○	訪問していただいた方に、気持ちよく過ごしていただける様にしていきたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会や研修などに参加し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	職員の身体拘束に対する知識や理解を深める為、勉強会を行ったり、資料を配布していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族の要望もあり、エレベーターは暗証番号化しています。ご入居者が外出を希望される時は、極力希望に添えられる様に取組んでいます。また、階段へ通じる扉や中庭への窓は開閉するとチャイムが鳴る様にしています。	○	安全策が整い、将来的に家族の同意が得られた時、見守りで対応できる様になりたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご入居者と時間空間を共有しながら過ごす事で、日中帯は把握に努め、夜間帯は巡回や目覚めた時にはすぐ対応できる様、居場所の工夫や、音にすばやく反応するようにしています。	○	職員同士が情報を共有し、徹底を図っていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	高齢の方が多いので、刃物等の取り扱いは避けていただいて、職員の対応が主になっています。	○	一人一人の状況を常に把握して、危険のない様に対応したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会等で知識を深めたり、各種マニュアルを作成し、いつでも確認できる様にしています。また、予防措置を検討し、事故を未然に防げる様に取組んでいます。	○	事故発生の際に報告書を作成し、話し合いをし、再発防止に努めている。また是正処置の効果の確認も必ず行なうようにしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会等で知識を深めたり、各種マニュアルを作成しています。また、急変・緊急時マニュアルも作成しており、医師・看護師と24時間連絡・対応が取れる様に備えています。	○	定期的に勉強会で応急手当や救命講習を行ない、職員全員が対応できる様に取組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しています。年に2回の消防訓練を行ない、初期消火・通報・避難誘導の周知・徹底や勉強会で知識を深めています。また、地域での消防活動に参加したり、運営推進会議の場で協力を呼びかけています。	○	現在、地震・風水害に対するマニュアルも作成中で、今後は、防災訓練として取組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族と対話する時に、ご入居者の現状を報告、リスクについて説明し、対応策を話し合っています。	○	一人一人のリスクを話し合い、スタッフが認識し、定期的に見直しを行い、対応策を確実に実行していきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックと排尿排便チェックシートを記入しており、日頃より観察を行い、異変があれば緊急時マニュアルに従い、看護師へ報告し対応を行っています。	○	緊急時マニュアルの周知徹底、各職員日頃の異変への気配りの情報をミーティングや申し送り等で共有し対応に結び付けていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、ミーティング時に一人一人の薬の効能・副作用等を再度確認し合い、服薬の支援に努めています。 一人一人の処方箋をファイルに閉じ、職員が何時でも確認できるようにしています。	○	薬の変更等にもすぐに対処するため、知識を得るように努力していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールは大切な事なので便通に良い食事や運動に取り組んでいます。	○	チェックシートを活用してご入居者の体調を見ながら、身体を動かす働きかけをやっていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声掛け・見守りをし、個々の能力に応じて、介助を行っています。	○	歯科医師会主催の研修会の参加や勉強会を開く事で知識と技術の習得をしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、飲水摂取量を毎食後記録し、個別にミキサー食、刻み食、おかゆを提供しています。	○	栄養バランスの取れたメニュー作りを行ってきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成・設置しており、感染症に関する資料を職員全員が確認できるようにしています。また、ご入居者・職員共にインフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス対策として塩素消毒やペーパータオルを使用する等の予防を徹底しています。	○	事業所内で起こりうる感染症について、全職員が研修や勉強会で学習し、予防・対策に取り組んで行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具、手拭き、布巾、テーブルの塩素消毒を行い、チェックシートに記入しています。食材は買い貯めをせず、新鮮な食材を仕入れています。	○	これからもチェックシートに記入し、衛生管理を確認、把握して行きたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口付近に動物の置物を置いたりした事で、付近の子供さんがそれを見に来られたりする事もあります。	○	近所の方が通りがかりにでも寄っていただけるような雰囲気とご入居者とお話できる空間を持つ様取り組んで行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時はカーテンで調整しています。各行事の時には、ご入居者と一緒に折り紙等で工作し、飾り付け等を行っています。	○	ご入居者やご家族のご意見を取り入れ、四季を感じられる空間を作って行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのお茶の時間を共有したりして会話されたり、カラオケを楽しまれたりされています		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家族の写真やテレビ・家具等を置いている。出来るだけ馴染みの物を使用していただける様にしている。	○	馴染みの物を持ち込めない方には年間行事等の写真を飾って頂いたり、当ホームでの思い出の品を作って、居心地の良い空間を作りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室・リビング・トイレ・浴室に換気扇が取り付けられており、日中帯の天気の良い時は居室の窓を開けて換気を行っている。冷暖房はご入居者の発汗の様子や体調に注意し、ご希望を聞きながら調節を行っています。	○	各居室の温度調節にも取り組んでいきたい。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置等、転倒につながる原因がないかチェックしていく。また、皮膚の剥離がないよう、ベッド柵や車椅子の足元にクッションを付けている。	○	各フロアのアクシデント報告書を参考にし、より良い安全な環境づくりを全職員常に確認を行い、ミーティングで検討し、実践していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札に写真や名前を付けたり、トイレや浴室にも表示板を付けています。	○	混乱や失敗、事故が生じた場合、全職員で話し合い、環境整備に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入り口にプランターで植物を育てています。	○	野菜を育てて、自分達で食べるという楽しみを作っていきたい。この作業を通じて他入居者同士やスタッフとの関わりが増え、笑顔で作業に取り組む、役割へと繋げていければと思う。



番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 ○ 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない